

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, March 2019

課長：佐藤 裕久 H. Sato

幹事：下元 繁男 S. Shimomoto

## ○ 3月の状況 (佐藤)

☆ C/2018 Y1 (Iwamoto) (写真 a)

彗星課メーリングリスト (oaa-comet ML、以下同じ) などに次のように報告があった。

3月16日 10:08、筆者から「2月24.53日、3月9.47日 UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDでそれぞれ全光度を8.5等、9.7等と観測しました。2月25.42日、4.59日 UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10反射 + レデューサー (f/5) でそれぞれ核光度を10.9-11.2等、全光度を9.3等と観測しました。3月1.55日 UT、池村俊彦さん(新城観測所: Q11)が0.35-m f/5反射で撮った CCD 画像から、私は全光度を8.7等と測定しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

24日 23:17、筆者から「3月2.57日 UT、高橋俊幸さん(栗原:D95)は0.25-m f/4.2反射+CCDで全光度を8.7等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

16日 00:37、筆者から「2月11.67日、13.70日 UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10反射 + レデューサー (f/5) でそれぞれ全光度を6.8等、7.0等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

25日 08:05、筆者から「3月16.53日 UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDで全光度を10.7等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

26日 17:07、嶋邦博氏(東京都府中市)から「3

月は1~5日と八ヶ岳観測所に滞在しましたが、晴れたのは1日だけでした」とのコメントをつけて C/2018 Y1 を含めて 19 個の彗星と小惑星(6478) Gault の光度観測報告があった。

30日 18:06、筆者から「3月26.43日 UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10反射 + レデューサー (f/5) で全光度を13.8等と観測しました」とのコメントと画像を紹介し改良軌道要素を報告した。

3月中、国内で位置観測したのは他に、井狩康一氏(滋賀県守山市: 900)であった。

☆ 38P/Stephan-Oterma (写真 b)

17日 08:22、筆者から「2月25.46日、3月4.66日 UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10反射 + レデューサー (f/5) でそれぞれ全光度を15.0等、14.9等と観測しました。3月1.61日 UT、池村俊彦さん(新城観測所: Q11)が0.35-m f/5反射で撮った CCD 画像から、私は全光度を12.1等と測定しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

24日 23:23、筆者から「3月2.71日 UT、高橋俊幸さん(栗原:D95)は0.25-m f/4.2反射+CCDで全光度を12.3等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

25日 08:29、筆者から「3月16.58日 UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDで全光度を14.2等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

☆ 46P/Wirtanen (写真c)

20日02:39、筆者から「2月24.43日UT、高橋俊幸さん(栗原:D95)は0.25-m f/4.2反射+CCDで全光度を10.0等と観測しました。『46P(Wirtanen)は、随分暗くなりました。測光範囲は19.4'です』とのコメントがありました。3月7.65日、11.66日UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10反射+レデューサー(f/5)でそれぞれ全光度を14.3等、14.9等と観測しました。3月8.64日UT、池村俊彦さん(新城観測所:Q11)が0.35-m f/5反射で撮ったCCD画像から、私は全光度を10.8等と測定しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

25日08:26、筆者から「3月16.67日UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDで全光度を13.2等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

30日18:13、筆者から「3月11.66日、26.48日UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10反射+レデューサー(f/5)でそれぞれ全光度を13.9等、15.2等と観測しました。11.66日分は[0aa-comet 1835]の差替えです」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

○ 3月に検出・発見が確認された彗星

☆ P/2003 L1 = 2019 E1 (Scotti) E. Schwab (Egelsbach, ドイツ)の通報によると、3月9日と10日UT、D. AbreuがスペインのTenerifeにあるESA(欧州宇宙機関)の光学地上局の1.0-m f/4.4反射望遠鏡で得た画像から光度20.2~20.4等のP/2003 L1を検出した。合計600秒のスタックイメージでは、p. a. 300°にかすかな尾が約10"伸びて見えた。ICQ's 2019

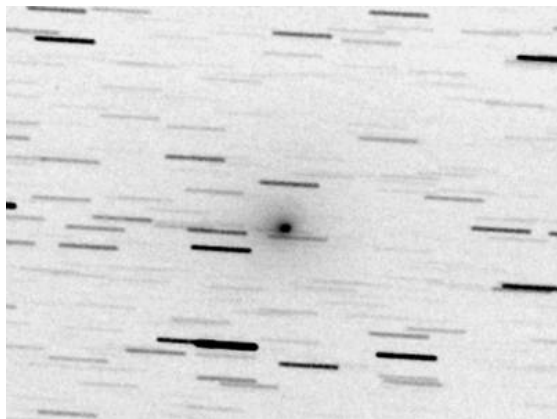
Comet Handbookの中野主一氏の予報に対して、Delta(T)は、-0.17 dayであった(CBET 4612、2019 March 10)。

☆ P/2005 Y2 = 2019 E2 (McNaught) E. Schwab (Egelsbach, ドイツ)の通報によると、3月10日UT、D. AbreuがスペインのTenerifeにあるESA(欧州宇宙機関)の光学地上局の1.0-m f/4.4反射望遠鏡で得た画像からP/2005 Y2を検出した。合計600秒のスタックイメージでコマや尾はない。3月18日UT、Schwabの要請を受けて、L. BelliとP. Breitenstein (Pascal-Gymnasium, Muenster, ドイツ)が、ハワイのHaleakalaにある2.0-m "Faulkes Telescope North" (FTN)による確認観測を、L. KurtzeからSchwabに提出した。合計540秒のスタックイメージもコマや尾はなかった。ICQ's 2019 Comet Handbookの中野主一氏の予報に対して、Delta(T)は、+0.04 dayであった(CBET 4613、2019 March 18)。

☆ C/2019 D1 (Flewelling) H. Flewelling (ハワイ大学)の通報によると、2月26日UT、ハワイMauna Loaにある小惑星地球衝突最終警報システム Asteroid Terrestrial-impact Last Alert System (ATLAS)調査プログラムのコースに0.5-m f/2 Schmidt反射望遠鏡で得た5枚のo-バンドCCD露出から彗星を発見した。この彗星は、恒星状の輪郭に比べ約9"拡張しているようで、p. a. 175°に約40"の尾がある。小惑星センターのPCCP webpageに公表後、T. LinderとR. Holmes (Cerro Tololo, 0.61-m f/6.5 Dall-Kirkhamアストログラフ、2月27.4日UT、15"伸びた尾と2"のコマが見えた)や佐藤英貴氏(東京都文京区、iTelescope天文台、

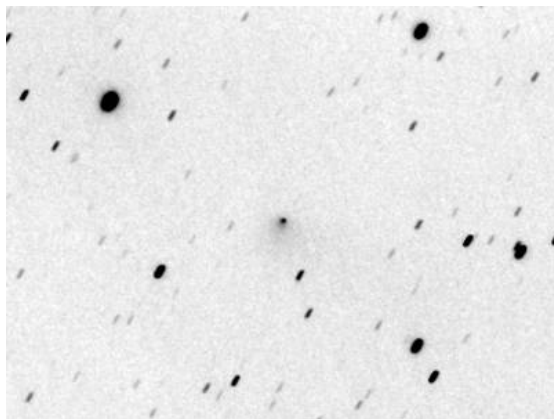
0.43-m f/6.8 アストログラフ, Mayhill 近郊, ニューメキシコ州, 遠隔操作, 2月 28.51日 UT, 60秒露出7枚のスタックで、強く集光した $8'' \times 10''$ のコマがあるが尾はない。 $5''.7$ の円形範囲で測定した全光度は17.5等であった)ら CCD位置観測者によって彗星と観測された (CBET 4614、2019 March 21)。

☆ C/2019 E3 (ATLAS) 3月5日 UT、ハワイ Mauna Loaにある小惑星地球衝突最終警報システム Asteroid Terrestrial-impact Last Alert System (ATLAS) 調査プログラムのコースに0.5-m f/2 Schmidt 反射望遠鏡で小惑星状天体を発見した。後にD. Youngは発見の30秒露出4枚スタックから彗星状に見えると報告が

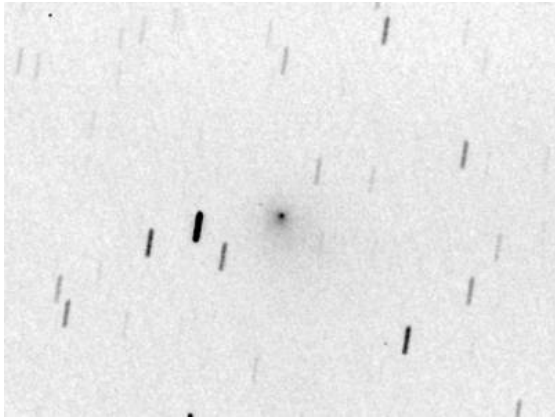


(写真 a) C/2018 Y1 (Iwamoto)  
2019, 03, 01 19h32.0m-20h06.0m (JST)  
exp. 60s×31 TOA130 + CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏

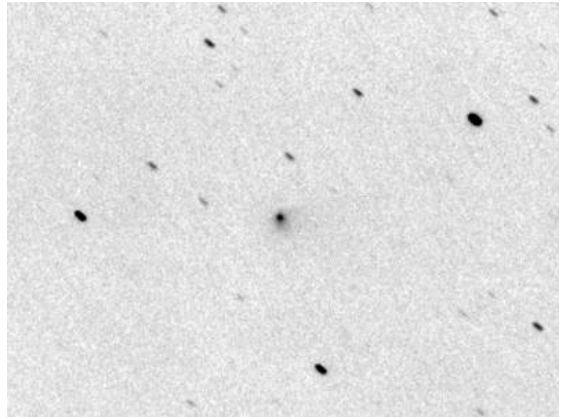
あった。小惑星センターの NEOCP と PCCP webpage に公表後、A. C. Gilmore と P. M. Kilmartin (Mt John 大学天文台, 1.0-m f/7.7 反射望遠鏡, 3月 6.5日 UT 貧弱なシーイングの中、中程度の集光で約 $10''$ の丸いコマが見えた)や佐藤英貴氏 (iTelescope 天文台, 0.51-m f/6.8 アストログラフ, Siding Spring, ニューサウスウェールズ州, オーストラリア, 遠隔操作)によると、3月 7.58日、60秒露出10枚のスタックで、強く集光した $15''$ の核状コマが見えるが尾はない。 $8''.8$ の円形範囲で測定した全光度は18.3等であった)ら CCD位置観測者によって彗星と観測された (CBET 4615、2019 March 21)。



(写真 b) 38P/Stephan-Oterma  
2019, 3, 01 22h30.0m-23h26.0m (JST)  
exp. 60s×51 TOA130 + CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 c) 46P/Wirtanen  
 2019, 03, 01 23h30.0m-24h26.0m (JST)  
 exp. 60s×51 TOA130 + CCD  
 三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) 123P/West-Hartley  
 2019, 3, 24 23h12.0m-46.0m (JST)  
 exp. 60s×31 TOA130 + CCD  
 三重県伊賀市上野 田中利彦氏

### ○ 主な光度等観測報告

2019	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
C/2015 O1 (PANSTARRS)											
Mar.	1.61	16.4	0.1'	-	0.7'	290°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②③
C/2016 N6 (PANSTARRS)											
Mar.	1.50	14.6	0.1'	-	0.5'	310°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②③
C/2017 K2 (PANSTARRS)											
Mar.	1.78	17.4	0.1'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
C/2017 M4 (ATLAS)											
Mar.	13.75	13.9	0.9'	-	-	-	-	-	EOS6D**	張替憲	④⑤⑥
C/2018 A3 (ATLAS)											
Mar.	1.46	17.2	0.1'	-	2.0'	65°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
C/2018 L2 (ATLAS)											
Mar.	8.82	12.6	1.1'	-	-	-	-	-	EOS6D**	張替憲	④⑦⑧
C/2018 W2 (Africano)											
Mar.	1.79	16.6	0.1'	-	0.4'	290°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
C/2018 Y1 (Iwamoto) (写真 a)											
Mar.	1.55	12.2	2.2'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
21P/Giacobini-Zinner											
Mar.	1.49	17.5	0.1'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②

2019	UT	ml	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
38P/Stephan-Oterma (写真 b)											
Mar.	1.56	14.6	0.5'	-	>8.0'	240°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②⑨
46P/Wirtanen (写真 c)											
Mar.	1.58	10.6	>0.8'	-	>1.5'	100°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
60P/Tsuchinshan											
Mar.	1.68	14.4	0.2'	-	>8.0'	305°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
78P/Gehrels											
Mar.	1.45	13.4	0.3'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②⑩
123P/West-Hartley (写真 d)											
Mar.	1.70	13.2	0.6'	-	>2.0'	245°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
	8.76	13.1	1.9	-	1.6	270	-	-	EOS6D**	張替憲	④⑤⑪
240P/NEAT											
Mar.	1.69	16.3	0.1'	-	0.6'	225°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②

\* 45-cm F12 (レデューサー使用 F4.6) カセグレン反射+FLI ML8300。

\*\* 15-cm F4 (レデューサー使用 F2.5) 反射+デジタル一眼 Canon EOS 6D。

- ① 観測地:長野県富士見町 五藤光学八ヶ岳観測所。② 60秒露出を Astrometrica UCAC-4 で測定。  
 ③ fan tail ④ 15 cm F2.5 反射+Canon EOS6D の G 画像を GUIDE9.0 を使用して Makali`i Ver1.4a にて  
 測光。観測地は千葉県九十九里木戸浜海岸。⑤ 50秒露出(25秒×2) ⑥ コマは集光のない恒星状。  
 ⑦ 60秒露出(30秒×2) ⑧ コマは弱い集光のある恒星状。⑨ Bent tail ⑩ oval ⑪ 集光のある  
 コマから真西に 1.6' の扇形の尾が伸びている

※ 全ての光度等観測は、次を参照。

[http://www.comet-web.net/~oaa-comet-ml/comet\\_mag\\_report.htm](http://www.comet-web.net/~oaa-comet-ml/comet_mag_report.htm)

※ 光度等の観測報告は、佐藤裕久宛て e-mail : hirohisa-sato@hi-ho.ne.jp に送付ください。